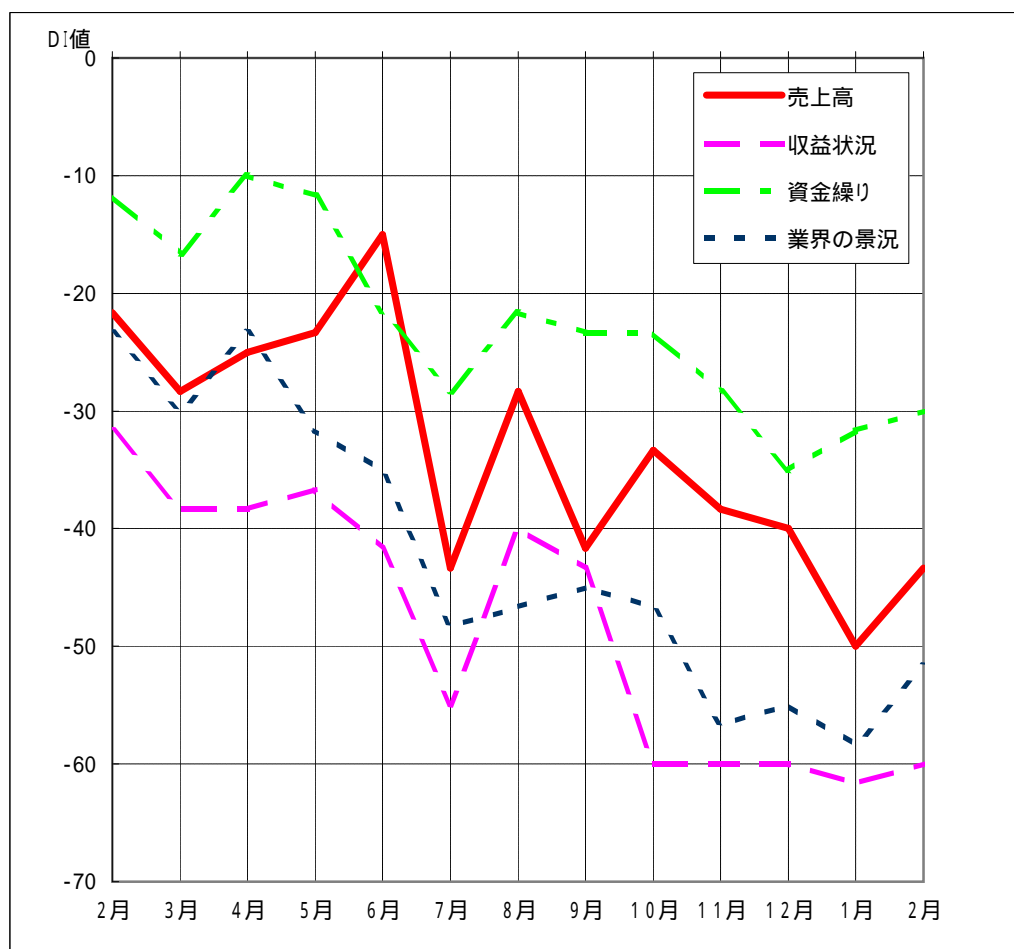


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成19年2月～平成20年2月

単位:ポイント



H19

H20

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
売上高	-21.7	-28.3	-25.0	-23.3	-15.0	-43.3	-28.3	-41.7	-33.3	-38.3	-40.0	-50.0	-43.3
収益状況	-31.7	-38.3	-38.3	-36.7	-41.7	-55.0	-40.0	-43.3	-60.0	-60.0	-60.0	-61.7	-60.0
資金繰り	-11.7	-16.7	-10.0	-11.7	-21.7	-28.3	-21.7	-23.3	-23.3	-28.3	-35.0	-31.7	-30.0
業界の景況	-23.3	-30.0	-23.3	-31.7	-35.0	-48.3	-46.7	-45.0	-46.7	-56.7	-55.0	-58.3	-51.7

長期化する原材料価格の高値推移により厳しい状況が続いており、2月のDI値は前年同月より上記全項目で悪化した。「売上高」DIは21.6ポイントの悪化でマイナス40%台に推移、「収益状況」DIについては、28.3ポイントの悪化でマイナス60%となった。また「資金繰り」DIについては18.3ポイントの悪化でマイナス30%となり、「景況」DIについては28.4ポイントの悪化でマイナス50%台へと推移している。

ここ3か月の景況は、DI値で見れば各項目とも前月より好転してはいるが、不安材料が山積しているため、依然厳しい状況であることが窺える。

組合の特記事項からは、製造業では「繊維・同製品」「鉄鋼・金属」「一般機器」の一部で堅調な受注がみられるものの、他の製造業では原材料価格の上昇分を価格転嫁できず厳しいとする報告が多い。

非製造業では、前月に引き続き諸物価の上昇から消費が低迷し、売上減とする報告・回答が多く、「収益状況」「業界の景況」についても製造業よりマイナス幅が大きくなっている。

また、中国製食品問題等にかかる報告もいくつかの業種で見られるようになり、今後の影響が懸念される。